

下市田区 令和6年度地元町議会議員と区民の懇談会（令和7年2月15日）

<記録3：高森町政の現在と今後>

会場から

サッカー場の問題から、町民がよく情報を得られないまま町の方の計画がどんどん進められていって、議会も通っていってしまうという印象を受けるんです。町にはまちづくり基本条例があって、今度議会基本条例ができて、まちづくりは町民が主人公ですよ、町民の声を大事にして町も議会もやっていくんですよって高らかに歌い上げるんですが、真逆で、町民にはいろんな情報が伝わってこない。町民がその情報を見つけようとしないうというよりも、発信されないんだから分かりようがない。なのに計画だけはどんどん進んでいく。サッカー場もMIZBEステーションもクラブハウスもそう、またここへ来て温泉も福祉センターもそう。それらが本当にわからないまま、多額の事業費をかけながら、町が借金を負いながらやっていく。何でこのように、町民への情報不足、声を聞かないで進めるって、なんでこんなふうに町になってしまうか、ちょっとそこんところをお聞きしたいなと思います。

三浦喜久夫議員

まず議会が町から報告のあった情報をもっと早く伝えなきゃいけないと思います。それができていない。高森町議会は以前からそういう体質があって、町民の声を聞くんだ、議員間討議をするんだっていうところを基本に挙げたのが今度の議会基本条例です。そういった文字で明文化されたことを、私ら議会の方も守っていかなければならない。今までそういうものがなかった。そういった体質を今日からころっと変えられるかどうかっていうことはすごい課題でもあります、議会基本条例を作った以上、町からもらった情報は町民の皆様にお伝えをして、声を聞くっていうふうに自分も変わっていかなければならないと感じています。